

地域自主防犯活動活発化事業

実施結果報告書

1 団体名	楽田小学校 PTA
2 事業名	楽田子どもの安全見守り隊“活性化”プロジェクト
3 事業実施結果	<p>犬山市楽田小学校区における登下校の子どもたちの見守り活動は、楽田地区PTA が核となっている。主に、旗当番、スクールガード活動（登下校の引率）、青色防犯パトロールカーによる地区巡回が活動の柱である。これらの活動は楽田小学校を拠点に、楽田地区コミュニティーや楽田スクールガード会、犬山警察等とも連携を取りながら、様々な子どもたちの安全を見守る取り組みを、持続可能な取り組みに再編することをテーマに、着実に前進してきた。</p> <p>特にコロナ渦にのまれたここ5年ほどは、全ての活動が停滞したものの、DX（デジタルトランスフォーメーション）とロコミのダブルアプローチで、停滞した活動を再起させることに成功している。しかし、これまで行ってきた改革は基本的に業務の効率化であって、共働き世帯の増加など、ボランティアで活動している活動の柱となるマンパワー不足を補うことにはなっていない。だが、これ以上の見守りボランティアの人数を増やすことは難しくなっている。</p> <p><u>スクールガード勧誘活動</u></p> <p>今後も持続可能な取り組みを促すために、ビラを作成し勧誘活動を行うこととした。<u>PTA 地区委員・地区連絡委員が中心となって地域にビラを直接ポストインした。</u>スクールガード勧誘のターゲットとなる年齢層は、ネットを多く見る世代ではないことを考えると、ビラによる直接的な情宣が一番効果的であろうと思案する。継続的に働きかけることで、スクールガードボランティアを確保したい。</p> 

子ども 110 番の再構築

地域の安全を守るための次の手立てとして、警察の方と懇談したところ、防犯カメラの設置や子ども 110 番の家の継続に手立てを講じられないかとの考えに至った。防犯カメラについては、警察と楽田地区コミュニティーが協力して一定の成果を出したが、子ども 110 番については、本会が中心となって、活性化の手立てを考えるべきとして、以下の方針で見守り活動を活性化させようと計画した。

- ① 活動継続のための制度の再構築
- ② 情報共有のシステムの作成
- ③ 子ども 110 番活動の周知

平成 20 年代の資料があるのみで、実働がなされていないのが実情であった。制度設計の見直しから確認する必要がある。また、紙の資料では、情報共有することが難しい。さらに、この取り組みを周知させなければ、意味がない。学校運営協議会の中でも、現在どうなっているのか指摘も受けた。

上記の方針より、下記の事業内容を計画した。

(1) 現在の子ども 110 番の家の現状把握調査

平成 21 年の資料には 200 件の登録者がいた。しかし、すでに看板が外れているところ、色あせて見えなくなっているところ、様々な家があった。そこで、実地調査を行い、現状把握をした。具体的には、この 200 件すべての家を訪問し、看板の設置がなされているかを確認した。

番号	名前	事業所名	メモ	地区名	住所	調査結果	Googleマップ
3				内久保	字前田 4 2	ぼろぼろ	42 Maedamen u
4				内久保	字前田 7	別の表示版	
6				倉善	字前田 2 8 - 1 6	ぼろぼろ	28-16 Fueda u
13				荒井	字打越 1 7	別の表示版	17 Uchikoshi u
16				荒井	字荒井 3 - 5	ぼろぼろ	
20				桃山台	字桃山台 2 - 1 0 5	別の表示版	2 Chome-105 Moi
31				タイシン重機サービス	字角池 3 5	別の表示版	35 Kakuike u
36				栗田家	字前並 5 3 - 2	別の表示版	53-2 Maenami u
38				勝部	若宮 6 2 - 5	ぼろぼろ	62-5 Wakamiya u
45				勝部	字北之門 3 6 - 2	きれい	36-2 Kitanomori u
49				追分	字追分 5 1 - 6	きれい	51-6 Oiwake u
50				中道	字元敷前 3 7 - 3 6	別の表示版	37-36 Motosanmi
67				二ノ宮	字宮西 4	きれい	4 Miyanishi
70				南二山	字惣作 7 2 - 5	きれい	72-5 Sosaiku u
75				山崎	字栗津浦 3 6 - 2	別の表示版	36-2 Yakushiura u
91				原第一	字表之門 2 0 1	ぼろぼろ	201 Uranomori u
93				本郷	字若宮 1 2 3 - 3	別の表示版	123-3 Wakamiya
106				下本町	字下穂島 1 0 - 2	ぼろぼろ	10-2 Shimoenkiji

現状

(2) 子ども 110 番の家の登録システムの再構築

恐らく、依頼しっぱなしで放置している現状であるため、入会・継続・脱退のための意思確認を実施するなどのシステムの構築が必要となる。実際に看板がある家を、訪問し、今後、継続をしていただけるか再度確認を実施した。

(3) グーグルマップによる子ども110番の家の集約・見える化

住所だけでは見えてこない、110番の家の配置をグーグルマップで集約することで、実態を把握できるようにした。今後は、保護者にもどこにあるのかを知ってもらうことにより、日ごろの登下校時の安心安全に対する意識の変容にもつながる。



(4) HPやロコミによるスクールガード会員の募集

ホームページやサイトの運営・拡充とポスターやビラの印刷を実施して、地域の認知度の向上を目指した。

4 成果と課題
及び今後の
取組み

(1) 事業実施の成果及び課題

子ども110番の家の実態を運営側も把握していなかったため、実際にどれくらいの方の協力を得ているか、継続しているかを把握できたのは大きな成果であった。また、紙面上で把握していたものをデジタル上で共有したことによって、担当者の負担軽減にも繋がった。今回の事業により、子ども110番の家のマップが、地区委員と事務局の情報共有のプラットフォームになったことで、変更や実際の活用などもスムーズに運用できるであろう。

(2) 今後の取組み

新たな子ども110番の家の勧誘やスクールガードの勧誘を実施することと、継続的で持続可能な取り組みにブラッシュアップしていくことが求められる。そのためには、定期的な見直しをかけていく必要があるだろう。地域の安全対策は自分たちでやらなければならないという意識をさらに上げていくためにも、PTA内の会合だけではなく、コミュニティーの会合や町会長の会合などにもビラを活用して協力を呼び掛けたい。